

令和6年度 県政モニターアンケート調査結果

テーマ：資源の有効利用について

【調査の目的】

日本国内では、売れ残りや期限切れの食品、食べ残しなど、本来食べられるにもかかわらず捨てられてしまう「食品ロス（フードロス）」が年間 472 万トン発生しています。これは、国民一人当たりで換算すると、毎日お茶碗 1 杯分（103 g）に近い量を捨てている計算になります。

本県では、この食品ロスの削減のため、平成 28 年度から事業者や県民の皆様と行政が一体となって県民運動として取り組んでいます。

また、海洋プラスチックごみ問題を背景に、本県では、ワンウェイ（使い捨て）プラスチックの使用削減やプラスチック代替品の利用促進などに取り組んでいます。

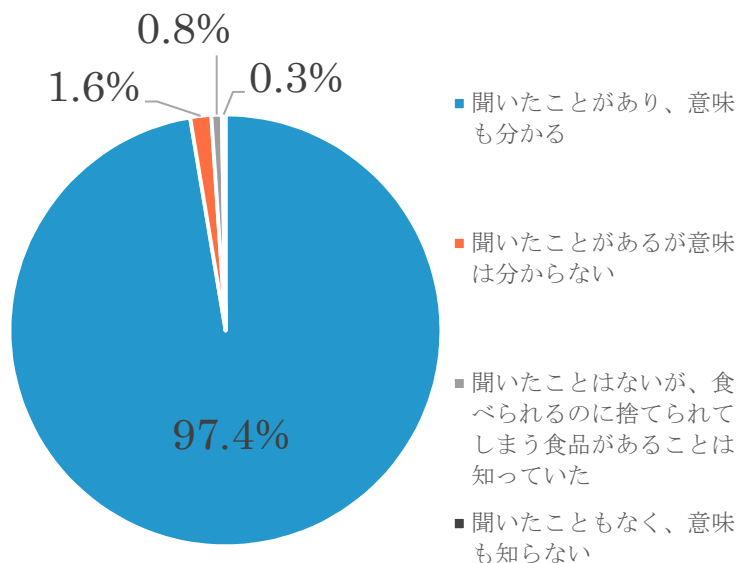
プラスチック代替品の利用促進にあたっては、まず、プラスチック代替品にはどのようなものがあるのか、なぜ環境に優しいのかを知ってもらうことが必要であり、次のステップとして、環境に配慮した商品を選ぶという意識の醸成を図っていく必要があると考えております。

つきましては、食品ロス削減やプラスチック代替品に関して、皆様の御意見をお聞かせいただき、今後の行政施策の参考とさせていただきたいと思っております。

（環境部循環型社会推進課）

問1 「食品ロス（フードロス）」という言葉について聞いたことがありますか。

また、その意味を知っていましたか。当てはまるものを一つ選んでください。（回答者数：381）



「言葉を聞いたことがあります、意味も知っていた」と回答した過去データ

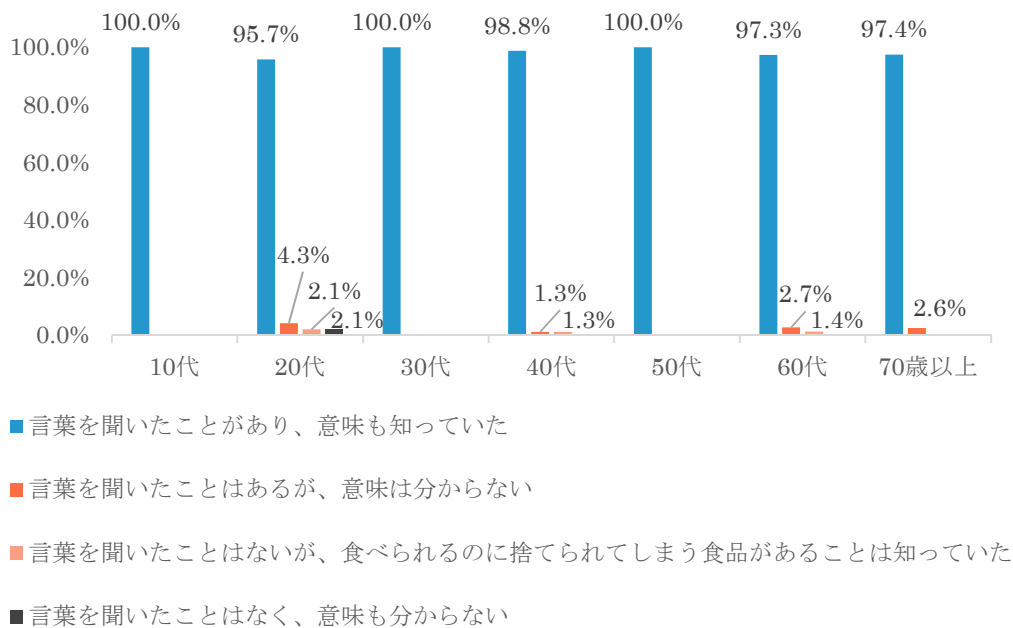
令和3年度：97.2%

令和4年度：96.2%

令和5年度：97.8%

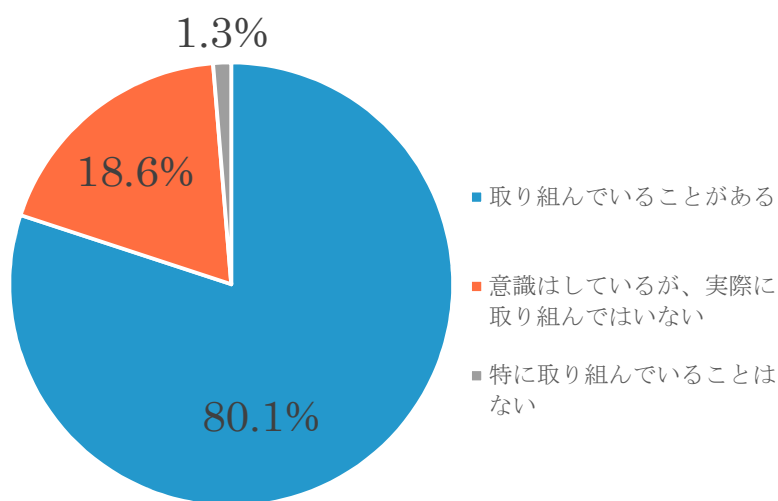
令和6年度：97.4%

年齢別回答



- 「意味も知っていた」と回答した割合は昨年度より若干減少し、97.4%となった。
- 言葉の意味を知らない割合はどの年代においても非常に小さいが、比較的20代で高い結果となった。

問2 実生活の中で、食品ロス削減に取り組まれていますか。
当てはまるものを一つ選んでください。(回答者数：381)



「①取り組んでいることがある」

「②意識はしているが実際に取り組んではない」 過去データ

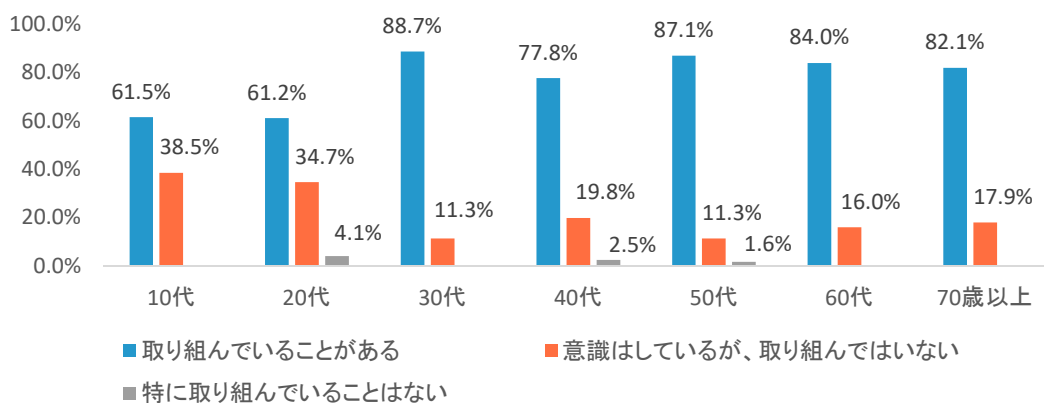
令和3年度：①64.5% ②29.4%

令和4年度：①64.7% ②29%

令和5年度：①83.6% ②13.5%

令和6年度：①80.1% ②18.6%

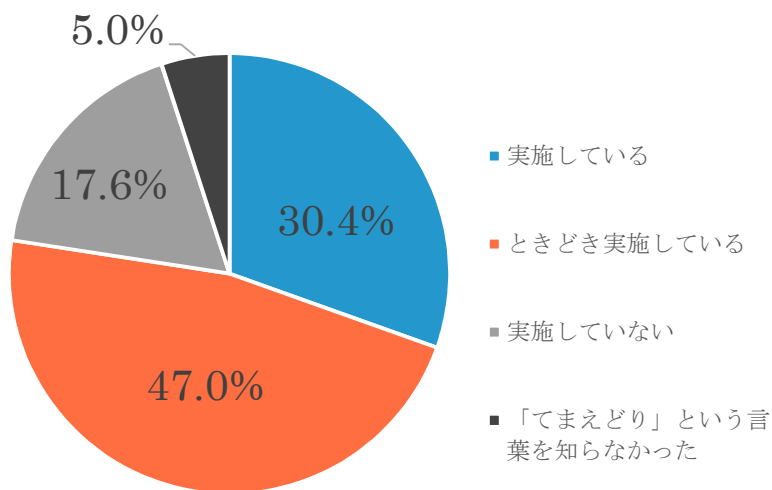
年齢別回答



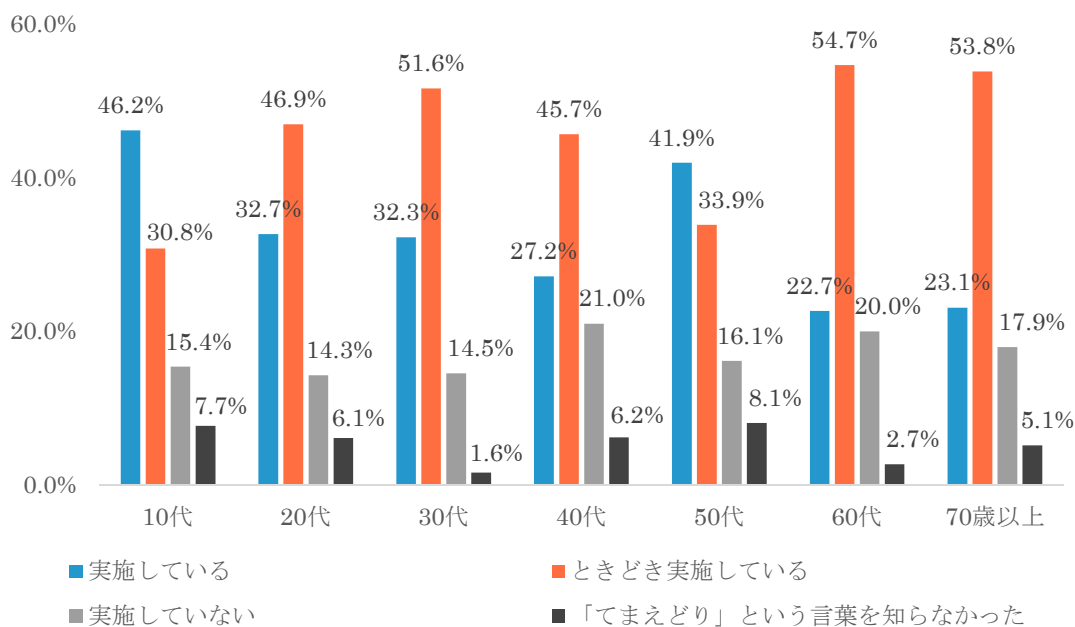
- 「取り組んでいる」と回答した割合は、昨年度から減少し、80.1%となった。
- どの年代においても「取り組んでいることがある」と回答した人の割合が1番高いが、10代および20代の「取り組んでいることがある」割合が61%代と低いことが分かる。

問3 購入してすぐに食べる場合に、商品棚の手前にある消費・賞味期限の近い商品を積極的に選ぶ行動のことを「てまえどり」と言います。

購入してすぐに食べる場合に「てまえどり」を実施していますか。(回答者数：381)



年齢別回答

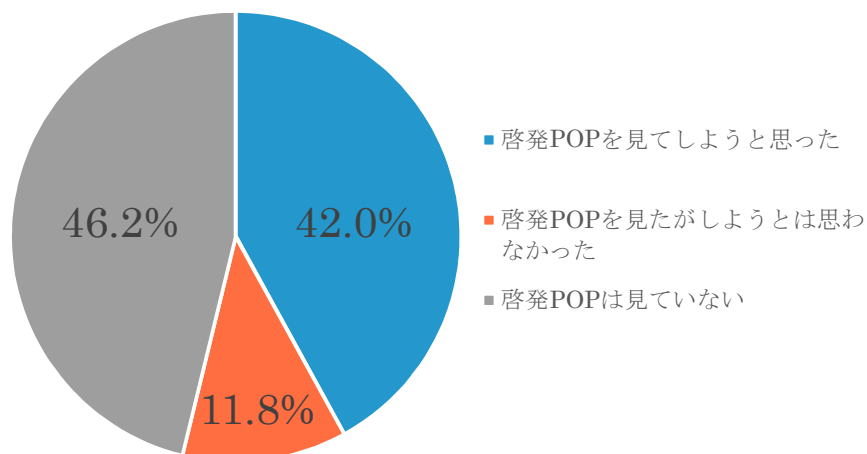


- 「てまえどり」を実施している、もしくはときどき実施している人の割合の合計は 77.4% となり、4 分の 3 以上の人意識して「てまえどり」を実施したことがあるという結果となった。
- 「てまえどり」という言葉を知らなかった人の割合は 5.0% であり、言葉の認知度は高いことが分かる。

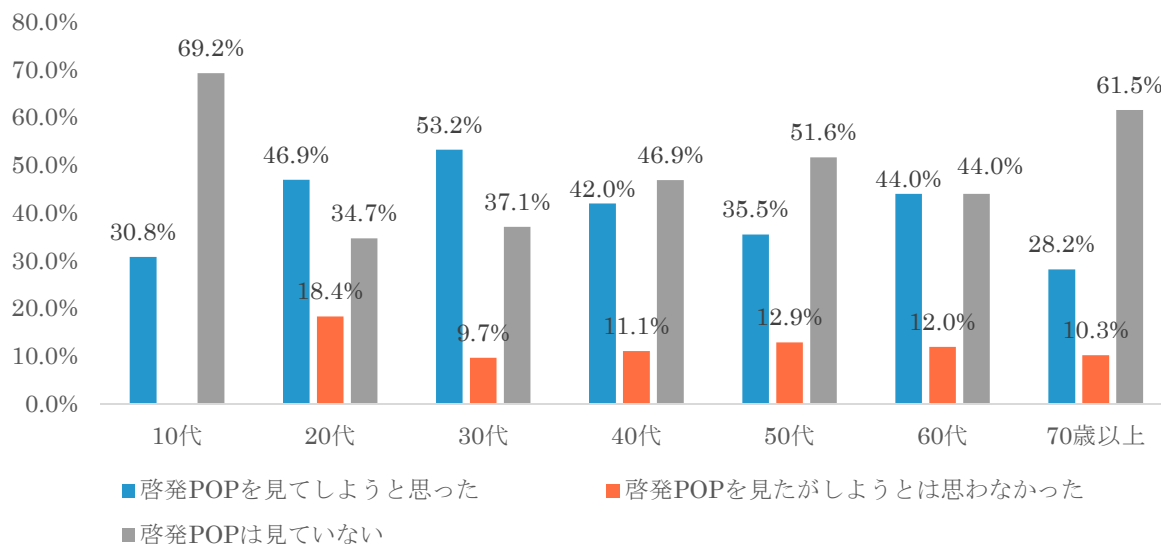
問4 令和5年度、県内のコンビニ・スーパーマーケット13社の店舗で10月の食品ロス削減月間に合わせて「てまえどり」の啓発POPを掲示しました。

店舗で「てまえどり」の啓発POPを見たことにより「てまえどり」をしようと思いましたか。

(回答者数：381)



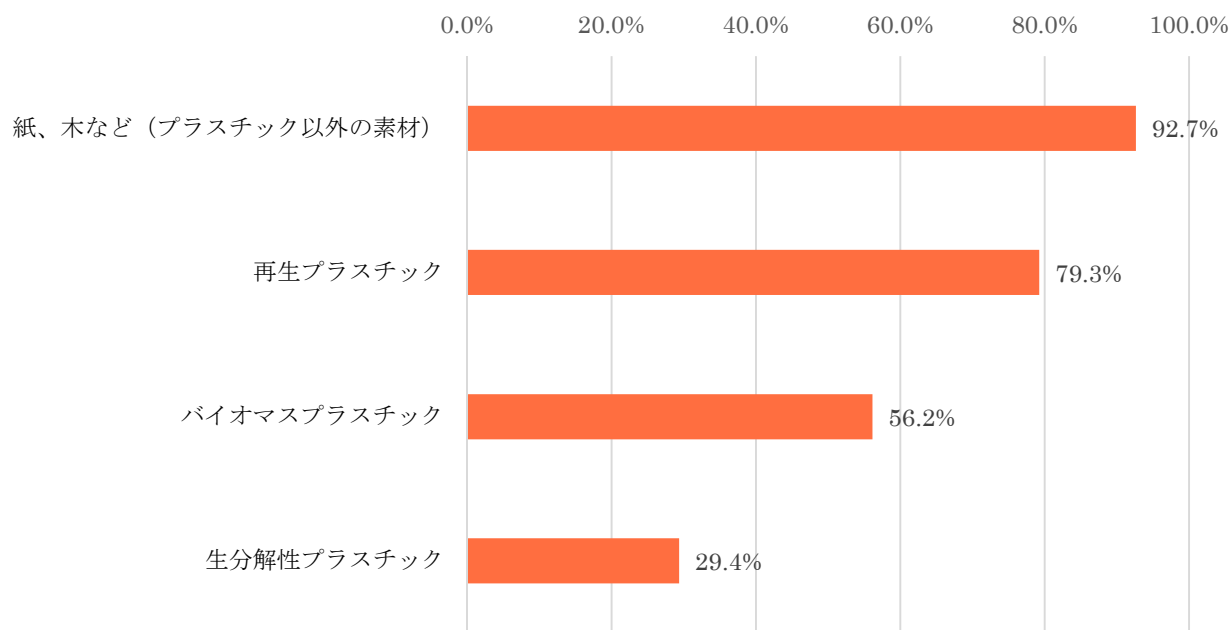
年齢別回答



- 啓発POPを見ていないと答えた人の割合が一番大きく46.2%であった。
- 次いで「てまえどり」啓発POPを見たことにより、「てまえどり」をしようと思った人の割合は42%であり、POP掲示による啓発効果が伺える。

問5 次に挙げたプラスチック代替品の中から、知っているものを全て選んでください。

(回答者数：381)

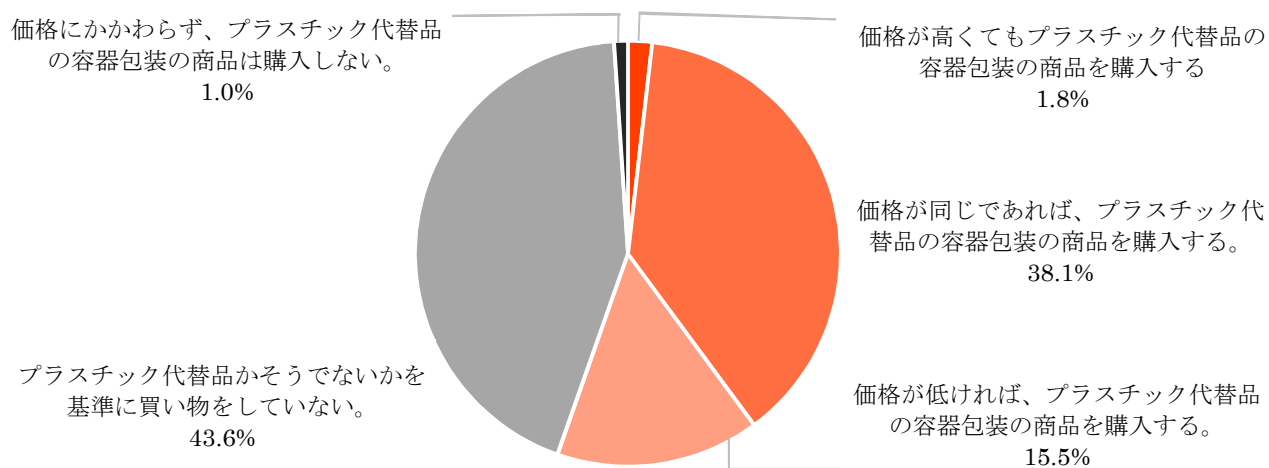


○紙や木など、身近にある素材については認知度が高い。

○バイオマスや生分解性など、素材の性質に由来した素材については、一定程度認知度されている。

問6 普段の買い物の際、商品自体は同じもので、商品の容器包装が石油から作ったプラスチックでできたものと問5で挙げたプラスチック代替品でできたものがあった場合、プラスチック代替品でできた容器包装の商品を購入する条件について、当てはまるものを一つだけ選んでください。

(回答者数：381)



○「プラスチック代替品かそうでないかを基準に買い物をしていない」という回答が多い。

○一方で、「価格が同じであれば、プラスチック代替品の容器包装の商品を購入する」とした回答も多いことから、環境に配慮するという意識が高まっているようにみられる。

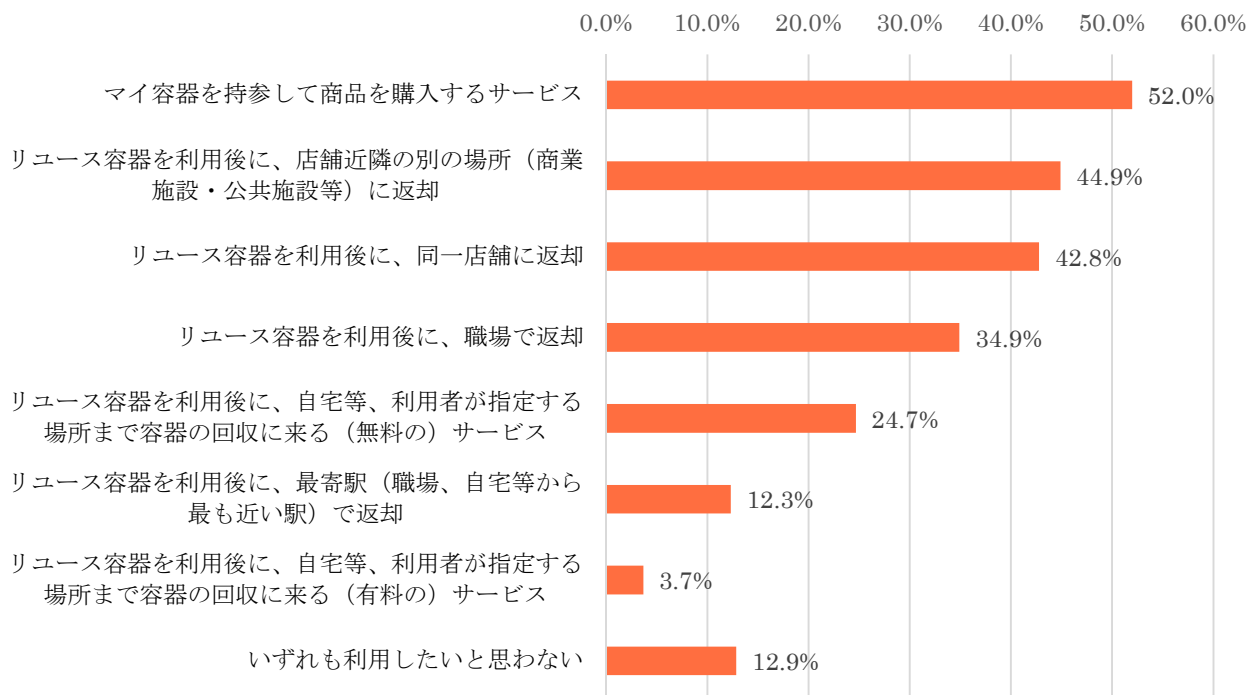
問7 プラスチックごみ削減に向け、使い捨ての容器に変えてリユース容器※を利用可能な店舗や、マイ容器を持参のうえ量り売りで購入する店舗が、近年改めて注目されています。

そこで、食品や飲料などの商品を購入する際、どのような容器や返却方法であれば利用したいと考えますか。以下のサービスについて、利用したいと思われるものを全て選んでください。

(回答者数：381)

※リユース容器

本設問においては、洗浄により繰り返し利用が可能で、返却が必要な容器を指します（マイ容器は除きます）。



○マイ容器を持参して商品を購入するサービスは、返却が必要なリユース容器で商品を購入するサービスに比べ、受け入れられやすい。

○リユース容器で商品を購入するサービスの中では、「店舗近隣の商業・公共施設等に返却」「同一店舗に返却する」といった方法は4割以上の方が利用したいと回答している。